

J - クレジット制度管理者 御中

実績確認概要書

平成30年3月12日

審査機関名 ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド

1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	オザワ織工株式会社におけるガス焚き高効率ボイラの導入によるCO2 排出削減事業
承認番号	KC0980
排出削減事業者名	オザワ織工株式会社
排出削減共同実施事業者名	ESカーボンクレジット合同会社 (その他関連事業者名：なし)
事業実施場所	オザワ織工株式会社 (住所：愛知県一宮市大毛字中新開 8 番地)
事業の概要	A 重油ボイラーから都市ガスボイラーへと設備更新することにより、高効率化を実現し、CO2 削減を図る。□
排出削減量の計画	2010年度：499tCO2 2011~2012年度：2,170 tCO2 2013年度：2,113tCO2 2014年度：2,228tCO2 2015~2017年度：2,157tCO2 2018年度：1,655tCO2 (事業実施期間合計17,306 tCO2)
クレジット認証期間	開始日 2011年1月6日 終了予定日 2019年1月5日
排出削減方法論	方法論番号001: ボイラーの更新

2. 本実績確認の対象期間

2013年4月1日 ～ 2017年11月30日（第4回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	6,326tCO ₂ (2013年4月1日～2017年11月30日)
-------	--

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 対象設備のエネルギー使用実績および現地確認時の事業者への質問等により、実績報告期間において継続的に稼働していたことを確認した。□
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 方法論及び当該削減計画に沿って、都市ガス供給会社の請求書によりボイラー燃料使用量の把握がなされていることを確認した。 2) 活動量の正確性 報告期間中に亘り、記録責任者の管理の下、都市ガス供給会社の請求書が保存されており、本データが正確に集計・算定されていることを、請求書と集計データの突合等により確認した。 3) 単位発熱量、排出係数等の確認 排出削減量の算定式及び使用されている単位発熱量、排出係数等が、Jクレジット制度モニタリング・算定規定Ver2.9、

	<p>方法論及び承認排出削減事業計画に従っていることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認</p> <p>排出削減量の算定結果を電力量計の集計データとの突合、計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果に大きな誤りはないことを確認した。□</p>
算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと	<p>今回の実績確認対象期間は 2013年4月1日から 2017年11月30日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2019年1月5日となっているため、超えていないことを確認した。□</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

今回の検証において承認排出削減事業計画からの重要な変更点に該当する事象はなかった。

6. 特記事項

本実績確認期間における省エネルギー量として、原油換算-267.1kL、熱量換算-10352.0GJであることを確認した。

なお、前回実績確認よりも年間CO2排出削減量で約25%減であるが、これは生産高は変わらないものの、生産プロセスを大幅に見直したことにより、ボイラーの運転時間が短くなったためである。（当該事業者は、生産プロセスの見直しにより、平成29年度省エネルギー大賞の経済産業大臣賞（CGO・企業等分野）を受賞している。）

以上